

# 評価委員会（資料編）

# 1. しごとをつくり、安心して働けるまちづくり

|      | 具体的な内容            | 現行基準          | 平成32年3月末の目標値  | 達成値                    | 自己判定 | 効果検証  | 備考(※KPIの見直し等に関する記載)  |
|------|-------------------|---------------|---------------|------------------------|------|---|--|
| NO.1 | 日南ブランド商品開発        | ※新規のため基準なし。   | 50件           | 14                     | B    | 商品開発は、国の交付金を有効に活用できたこともあり、道の駅のオープンに合わせて多くの商品化に繋がった。一方で、道の駅は販路として一つの通過点であり、いわゆるヒット商品と言われるほどの日南ブランド構築には、官民一体となった一層の取組が必要である。  |  |
| NO.2 | 食のバザール売上額         | 年4回実施で1,200万円 | 年4回実施で1,500万円 | 年3回実施で892万円(荒天のため1回中止) | B    | 荒天の関係で開催が減ったため、目標値の達成は出来なかったが、一定の集客はあった。今後は運営形態を変えながら、道の駅でのイベントという位置づけで開催を行うなど、創意工夫を凝らした取組を行うことが必要であり、同時に町の行政負担ゼロでの運営に向けた取組を行っていく。  | 先行型交付金の単年度事業であり、総合戦略から削除する。  |
| NO.3 | 名水販売本数            | ※新規のため基準なし。   | 販売本数1,800本    | 821本                   | B    | H28.4月より道の駅での販売を開始したが、期間も短く目標値には届かなかった。<br>さらに、もともと地域のPR商品として取り扱う事としていた経緯もあり、積極的な販売を考えていなかった事も売上に結びつくことが出来なかった一つの要因であろうと思われる。なお、交付金のKPIについては、販売箇所を目標値としていたが、それは明らかな誤りであった。道の駅のオープンに伴い、町内産の商品の売れ行きが良好であるが、その中の1つに町内産のお米が含まれている。今後、お米と水をセットで売る仕組みを構築していくことで、両方の売上アップに繋がる可能性も秘めており、色々な仕掛けにチャレンジしていきたい。<br>将来的には、民間レベルでの商品開発を行えるような方法も考えていく必要がある。 | ※交付金単年度事業ではあるが、全て売り切ることを目標とするため、KPIはそのまま残す。  |
| NO.4 | 農林業を核とした新規起業・創業件数 | ※新規のため基準なし。   | 10件           |                        |      | ※27年度は未実施   | 雇用者数や起業・創業者数が主で、結果として起業や創業によるものも一部起因することからみれば、農業・林業をはじめ、医療従事者など他の項目と重複するため、削除してはどうかと考える。 |

|      |                          |             |             |           |   |  |   |
|------|--------------------------|-------------|-------------|-----------|---|--|---|
| NO.5 | CSR活動企業数                 | 1件          | 3件          | 3         | A | <p>予定通り2者が新たに加わり、目標は達成出来た。成果の1つとして、首都圏の情報雑誌「ポコチェ」とタイアップを行い、日南町での森林保全活動を今回行った。次のステップとしては、この森林保全活動が、単なるPRではなく、継続的に首都圏の方々に日南町に来て頂くことを着地点とし、事業を進めていく必要があると感じている。具体的には、今年度よりハシバミを植栽単に植えるのみでなく、育てたその実を活用していただく取り組みを実施する。</p> | ※目標を達成したため、KPIを変更。  |
| NO.6 | 森林活動範囲                   | 10ヘクタール契約   | 30ヘクタール契約   | 20.18     | B | <p>H27年度実施した森林情報発信事業により新規2社の森林育成活動希望企業あり。そのうち1社は今年度7月に9.28ha契約。既存の日本通運(株)と合わせて20.18haとなった。</p>   | <p>新規の森林育成活動企業を募り、日南町に来ていただくにあたり、契約haをKPIとして設定することはあまり意味がないと判断。上記CSR活動企業数の変更を行う事で当該項目は総合戦略から削除することとしたい。</p> |
| NO.7 | 森林活動関連林業雇用者数             | ※新規のため基準なし。 | 10人         | 0         | C | <p>H27年度日本通運が行う年2回の森林育成活動を実施。2回の開催であるため、新たな雇用を生むに至っていない。</p>   | <p>森林育成活動企業数の増加は直接的に雇用者増へつなげることは困難(活動が年に1、2回程度しかないため)下記の『新規林業従事者数』のところですのでKPI設定してあるので削除する。</p>              |
| NO.8 | ブランド企業とタイアップした農作業関連グッズ制作 | ※新規のため基準なし。 | タイアップ商品5件開発 | ※27年度は未実施 |   | <p>今後の事業展開において協議を進める中で、新規就農者の入り口を拡大させるにあたってはグッズ製作よりも、もっと他にやるべきことがあるのではないかと結論に至ったため、当該項目は削除し、代わりに以下のとおり変更を行う。<br/>(変更内容)<br/>半農半Xライフプランの構築に向けた協議を行い、ダブルインカムを目指す新規就農者を目指す。なお、KPIIについては新規就農者数のヶ所で判断する。</p>                |   |
| NO.9 | 日南病院医療従事者                | 10人不足       | 5年間で10人雇用   | 2人        | B | <p>鳥取、島根、岡山、広島各県看護学校等への訪問、進路指導担当との面会、さらに人材紹介会社への登録、新聞等への転職情報掲載を行った結果2人の確保が出来た。</p>   |   |

|       |          |       |           |     |   |   |
|-------|----------|-------|-----------|-----|---|---|
| NO.10 | 福祉関係従事者  | 10人不足 | 5年間で40人雇用 | 10人 | B | 介護福祉人材育成奨学金制度(上限100万円、資格取得後4年間町内在住・勤務で返還免除)を設け、初年度は3名の申請があった。1名は進学され2名は28年度日南福祉会に就職された。近隣の高校・養成校に訪問し説明したので、制度の周知は図れたが、活用状況はまだ十分でない為、「積極的にPR活動を引き続き行っていく。なお、現在は、人員不足によってサービス提供に支障が出ないように、事業所の統合や縮小によって対応している。給与改定等法人の魅力づくりとあわせて、町としては奨学金制度をあらゆる機会にPRし活用を促していく。 |
| NO.11 | 新規就農者数   | 1人    | 10名       | 2名  | A | 東京、大阪で開催される新農業人フェア等に参加し、H28年度採用の研修生を3名確保した。継続した研修生の受入・育成体制が維持できた。   |
| NO.12 | 新規林業従事者数 | 1人    | 10名       | 1   | B | H27年度より高性能林業機械を使用した林業研修生制度を開始。2名が研修を行いH28.3月に卒業した研修生が町内林業事業体へ就職した。(もう1名は28年度も研修継続中)今後も引き続き就業の入り口でもある研修制度を充実化させることにより、就業人口を増やしていく取組を行う。<br>なお、20代～30代のUターン者が多い点にも着目し、これらの方々に林業関係企業で働いてもらえるような効果的なPR活動も官民一体となって行っていくこととしたい。                                     |

## 2. 日南町への移住・定住を促進させる

|       | 具体的な内容       | 現行基準        | 平成32年3月末の目標値 | 達成値 | 自己判定 | 効果検証  | 備考(※KPIの見直し等に関する記載)   |
|-------|--------------|-------------|--------------|-----|------|---|---|
| NO.13 | 移住定住相談窓口相談者数 | ※新規のため基準なし。 | 相談者数1,500人   |     |      | ※27年度は未実施   | 当該事業は、H28年度から実施する事業であり、今回の評価は行わない。目標値については、相談件数ではなく、相談窓口を設けたことで、移住者がどのように増えたかという点に着目すべき(※KPIの変更を行う) |
| NO.14 | 空き家バンク登録数    | 48件         | 75件          | 56件 | A    | H27年度の登録数は8件で、登録数としては近年の数を下回り、空き家バンク登録率は、19.9%に留まっている。移住等の相談対応に追われ、町内のまだ居住可能な空き家(276件)の登録斡旋活動に至らなかった。 |   |
| NO.15 | 生山地区分譲住宅購入者数 | ※新規のため基準なし。 | 5棟           |     |      | ※27年度は未実施   | (変更内容)<br>工事着手に向け区画数が8区画で決定したため、KPIの変更を行う(5棟→8棟)  |

|       |              |            |     |     |   |  |
|-------|--------------|------------|-----|-----|---|--|
| NO.16 | シングルマザー移住者数  | ※新規のため基準なし | 15人 | 4人  | C | <p>シングルマザーに特化して移住者の数を確認したが、4名確認が出来た。そこに特化した相談対応を行ったわけではない。誰もが住み良い制度検討やサポート体制を行う中で、結果シングルの方の移住にもつながる。</p> <p>現在、他の自治体においてもシングルマザーを対象とした事業を展開しているが、その大半が金銭的支援の充実化を重点的に行っている現状がある。関係者で色々議論をした結果、他の自治体とどうような施策を展開することは好ましくなく、かつ定住に繋がる可能性も極めて低いことから、改めてターゲットを変更すべきとの見解に至った。そのため、当該指標は削除し、別のものを設定し直すことにした。</p> <p>(変更内容)<br/>Uターン者数100人にする</p> |
| NO.17 | スローライフ目的移住者数 | ※新規のため基準なし | 20人 | 6人  | B | <p>転入者に無記名で記入いただくアンケートによると、田舎での子育て、田舎暮らしが転入の理由と挙げたのは6人であった。男性からのスローライフ希望の声も多く、潜在的意識としては高いため、引き続き相談会やツアー等PRを続けたいが、その際には移住希望者が求める「理想的な田舎暮らし」を把握し、そのニーズを町として確実にPR出来ることが重要と考えている。</p> <p>(変更内容)<br/>Uターン者数100人にする</p>  |
| NO.18 | Uターン者数       | ※新規のため基準なし | 30人 | 45  | A | <p>27年度実績では20代と30代のUターン者が23人と半数以上を占めており、一昨年度も同様の傾向が見られた。帰郷理由としては、離職に伴うものと町内での就職を理由に帰ってきた</p> <p>目標数値が低すぎたためKPIを変更する</p> <p>(変更内容)<br/>30人→120人</p>   |
| NO.19 | 女性用住宅        | ※新規のため基準なし | 15戸 |     |   | <p>※27年度は未実施</p> <p>(変更内容)<br/>多様なニーズに対応出来るよう、女性用に限らず、民間資本による世帯用向けアパートの建築を目指していく。</p>  |
| NO.20 | 移住相談会参加者数    | ※新規のため基準なし | 50人 | 29人 | B | <p>H27年度の移住相談会は、関東で3回、関西で4回(内1回は鳥取県西部地区で開催したもの)参加し、関東で13人関西で16人の相談者があった。Uターンの相談者数や継続相談件数は関東のほうが多く、出かけての相談は有効であると考え。ただし、会場や告知には検討の余地がある。</p> <p>先行型交付金の単年度事業であり、総合戦略から削除する。</p>   |

|       |              |            |      |     |   |   |                             |
|-------|--------------|------------|------|-----|---|---|-----------------------------|
| NO.21 | 移住ツアー参加者数    | ※新規のため基準なし | 20人  | 29人 | A | 鳥取県主催の東京発着の移住ツアー(8月)には、18人が参加されており、日南町のかつみやで田舎体験を行った。西部地区で実施した関西発着のツアー(3月)には12人が参加し、町内のお試し住宅等見学を行った。直接話しができ、問い合わせもあったが、時間も短く具体的な動きにはならなかった。新たな出会いが期待されるツアー事業だが、来所後のアクションにつなげられたらと考える。 | 先行型交付金の単年度事業であり、総合戦略から削除する。 |
| NO.22 | 雑誌購読者からの相談件数 | ※新規のため基準なし | 150件 | 12件 | C | 問い合わせ件数は少なく、かつ、当該取組を通じた移住者は0人であり、全く効果が出ていない。今後も移住者獲得に向けた動きは町としても進めるべきであるが、まずは町としての魅力をきちんと発掘をし、磨きをかけていくことが求められる。   | 先行型交付金の単年度事業であり、総合戦略から削除する。 |

### 3. 結婚・出産・子育ての希望を実現させる

|       | 具体的な内容       | 現行基準 | 平成32年3月末の目標値 | 達成値 | 自己判定 | 効果検証   | 備考(※KPIの見直し等に関する記載) |
|-------|--------------|------|--------------|-----|------|--|---------------------|
| NO.23 | 小児科医の勤務日数    | 週2回  | 週5回          | 0   | B    | 鳥大小児科医局への働きかけ<br>独自ルート開拓<br>人材紹介会社の活用<br>以上行っているが、発信力、情報収集力の不足を感じる。  |                     |
| NO.24 | 町内に24時間保育所設置 | 0箇所  | 5年間で1箇所設置    | 0か所 | C    | 平成27年度には、日南福祉会・日南病院・社会福祉協議会・子育て支援センター・保育園・教育課・福祉保健課が集まり、今後の取組みについて協議をした。<br>また、子育て世代の人や住民の意見を聞く場として、こどもゆめ基金運営審議会委員会で意見交換をした。<br>子育て支援策に関する課題の共有をする良い機会となった。<br>子育て支援策をわかりやすく効率的に再編成することが必要。育児休暇制度、就学前の児がいる世帯の夜勤免除等の支援策を充実・活用することが大切で、24時間保育所の設置を目指す目標は見直すべきではないかとの意見が多かった。 | 新たな目標値を設定する方向で検討中。  |



|       |               |              |                    |        |   |  |  |
|-------|---------------|--------------|--------------------|--------|---|--|--|
| NO.25 | 町内在住者の婚姻件数(組) | 47組(H22～H26) | 5年間で50組            |        | B | 平成27年度婚活支援事業は、独身男子の参加がなくイベント開催ができなかったため、同事業による婚姻件数に対する効果はゼロいきいき定住促進条例、医療費・保育料の減免等、既存事業については、これらが婚姻件数に一定の影響を与えているとは考えられない。現状としては、未婚移住者の婚姻が一定数あり(未集計)、これらは婚姻件数の維持・増加に寄与している。   | ①何らかのてこ入れがない限り、若年人口の減少による婚姻件数の減少は避けられない。②そのため、婚姻適齢期人口の増加、または町民の婚姻率の上昇を図る事業が必要。③婚姻適齢期人口の増加策としては、移住者の増加および婚姻適齢期の町出身者の流出防止を図る政策の拡充が必要。④婚姻率の上昇策については、出会いの場の創出事業が長年その任を担ってきたが、近年の実績からすると効果はないに等しい。③の事業に人と金を集中させるほうが効果が高いと考える。 |
| NO.26 | 事業所内保育延べ利用者数  | 900人         | 毎年1,000人以上         | 延べ512人 | C | 平成27年度は、利用児が保育園に入所した等の理由により、利用児数が減少した。保育園に夕方6時まで迎えに行けない人、保育園が利用できない土曜日の午後等の利用希望が多かった。平成27年度には、日南福祉会・日南病院・社会福祉協議会・子育て支援センター・保育園・教育課・福祉保健課が集まり、今後の取組みについて協議をした。また、子育て世代の人や住民の意見を聞く場として、こどもゆめ基金運営審議会委員会で意見交換をした。これとは別に、日南福祉会と今後の運営の在り方について協議をした。子育て支援策をわかりやすく効率的に再編成することが必要で、それによりより効率的に人財活用ができるのではないか、との意見が多かった。 | 実態に即した目標値に見直しが必要。新たな目標値については検討中。   |
| NO.27 | 中学生の英検取得者割合   | 中学生全体の15%    | 5年間で中学生全体の30%      | 18%    | B | 平成27年度は、英検5級10人、4級8人が取得した。1年生終了程度の5級から受験し合格することで次への意欲を持たせたい。この取組については、学校で「学力向上」を目指す一つの指標としても位置づけていきたい。   |  |
| NO.28 | 海外派遣者数        | ※新規のため基準なし。  | 生徒の50%<br>(※卒業生含む) | 8%     | C | 平成27年度は、春休み期間にアメリカ・シアトルに小学5年から中学3年まで10名派遣し、ホームステイ3泊と現地中学校で交流活動を実施した。次年度以降の計画について現地中学校と協議することができた。参加児童生徒は、外国や英語に対する関心・意欲を高め、報告会でその成果を発表した。  | (変更内容)<br>現在、各学年の生徒数は約25名程度であるため、目標値を中学校卒業時の生徒の40%に変更。(※今年度は10名派遣)   |

## 4. 安心して暮らし続けられる地域づくり

|       | 具体的な内容       | 現行基準          | 平成32年3月末の目標値 | 達成値                         | 自己判定 | 効果検証  | 備考(※KPIの見直し等に関する記載)  |
|-------|--------------|---------------|--------------|-----------------------------|------|---|--|
| NO.29 | 道の駅年間売上額     | ※新規のため基準なし。   | 5年間で売上額10億円  | 2900万円<br>(4月22～5月31日までの実績) | B    | 平成27年4月下旬にオープンし、5月末の時点で2900万円の売上を達成している。目標値を達成するには毎月1250万円の売上をクリアすることが前提となり、現時点ではその目標はクリアしているところであるが、まだまだオープン直後ということもあり、特需的な要素も想定されるため、今後は魅力ある商品の充実化を図るとともに、冬季期間の来客数をいかに伸ばすかが目標達成のカギを握ることとなる。 | 目標値を当初10億円と設定していたが、これには露店営業等の売上予想金額を含んでいたため、直売所とレストラン、トマト加工の3つの売上額を目標値にする。<br><br>(変更内容)<br>5年間で10億円→5年間で7.5億円 |
| NO.30 | 過疎地有償運送地域の拡充 | 1箇所           | 6地域          | 1箇所                         | C    | 一部地域で実施を行いたいという希望があるが、高齢化率が高い地域でもあり、実施は非常に困難な状況である。引き続き希望があれば協議を行うが、同時に既存のデマンドバスを利用しやすい乗り物となるよう、役場としても整理をしていく。  | (変更内容)<br>過疎地有償運送地域の充実化をデマンドバスのドア・ツー・ドア化に変更する  |
| NO.31 | 町営バス利用者数の維持  | 利用者数: 30,250人 | 利用者数3万人台を維持  | 利用者数 26,318人                | B    | 人口減少が続く中で、利用者数は減少傾向にある。H27年度に実施した調査事業の報告をもとに、H28年度に日南町公共交通総合計画を策定し、継続可能で効率的な公共交通網の確立を図る。  |  |



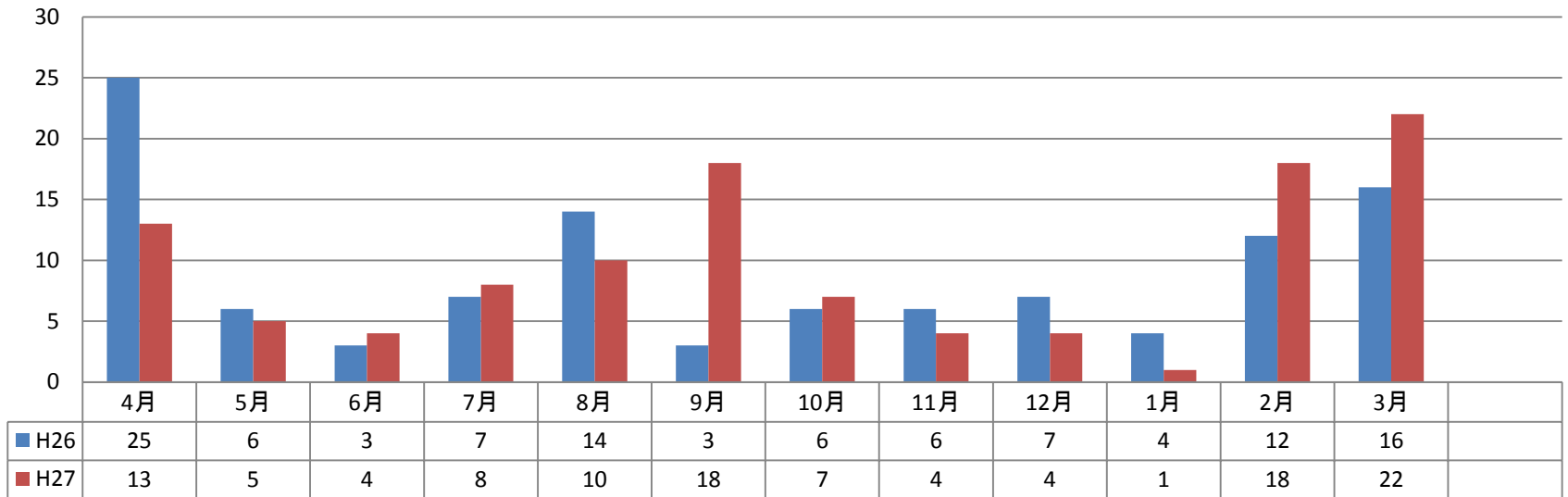
# H27年度日南町移住関係データ

～移住状況からみる今後の展開に関する考察～

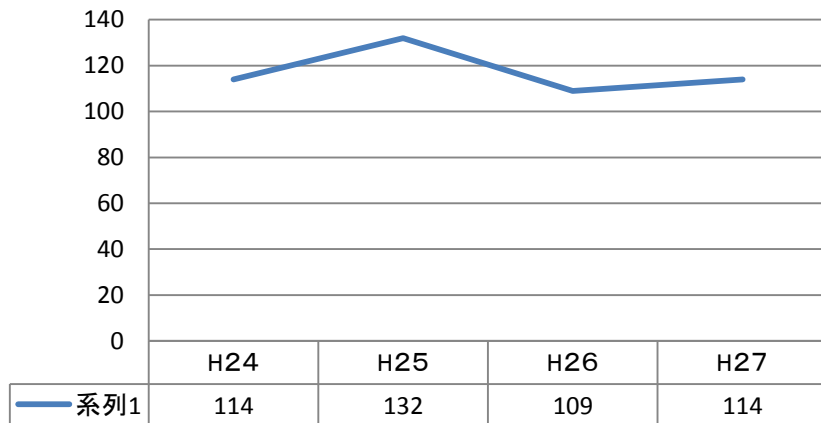
平成28年8月19日  
日南町役場自立改革推進本部

# 1. 平成27年度における町内の人の動きについて

## 1-1 月別移住者数の推移



### 参考：過去4年の移住者数推移



#### 【解説】

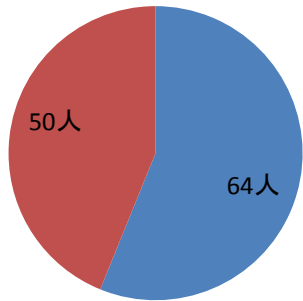
○平成27年度の移住者数は115人で前年より9人上回った。

○過去4年で比較すると平成25年度に一時的に人数が増加したが、平成24年度と同数値に落ち着いた状況。

○2月および3月については昨年度同様に増加傾向にあるためこの点については確認する必要あり。

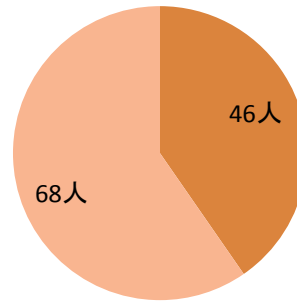
## 1-2 男女の内訳

■ 男性 ■ 女性



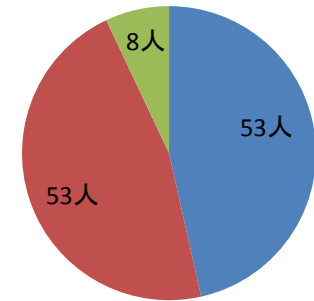
## 1-3 UターンとIターンの内訳

■ Uターン ■ Iターン

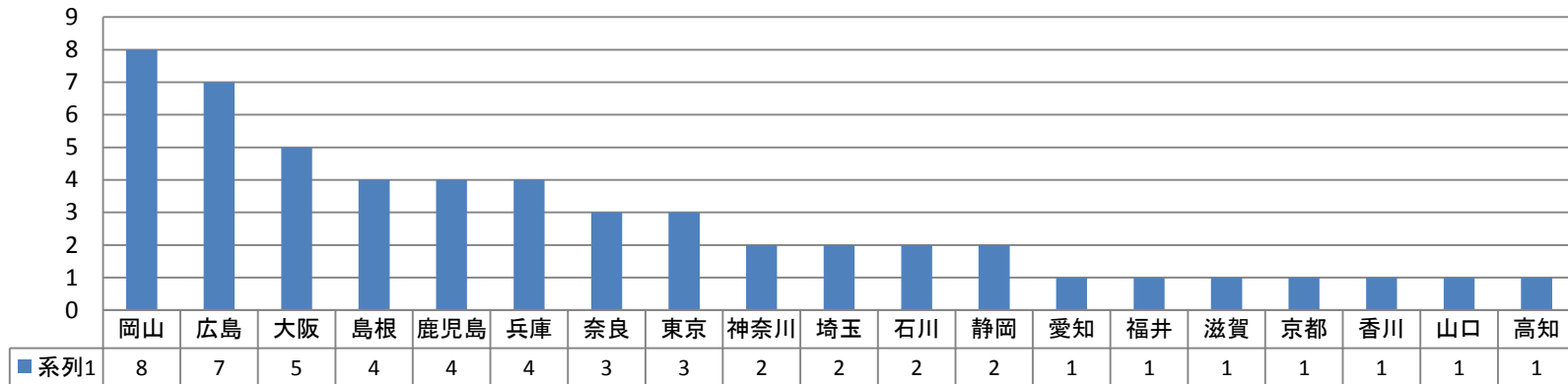


## 1-4 転入元の内訳

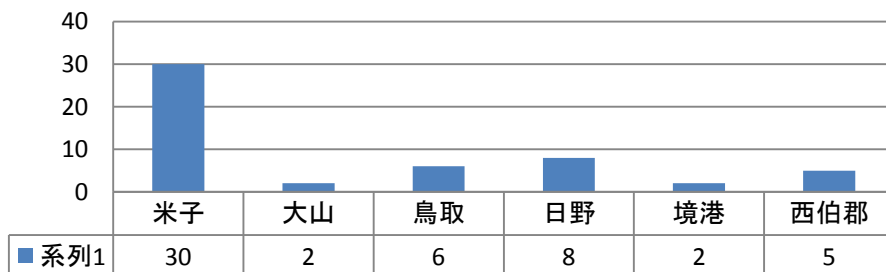
■ 県内 ■ 県外 ■ 国外



## 1-5 県外転入元県別内訳



## 1-6 県内転入元市町村内訳



### 【解説】

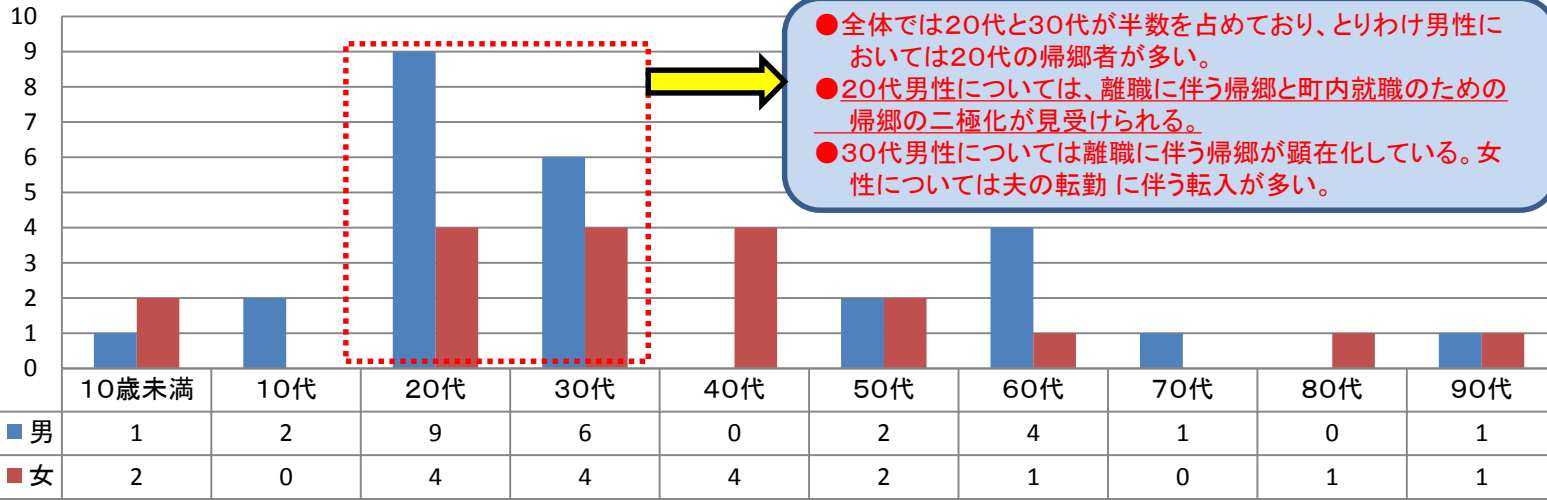
○Uターン者よりもIターン者が多い。(※昨年も同様の傾向)

○県内転入と県外転入は同数値であり、岡山・広島・大阪からの転入者が多いのは例年の傾向である。

### 【確認事項】

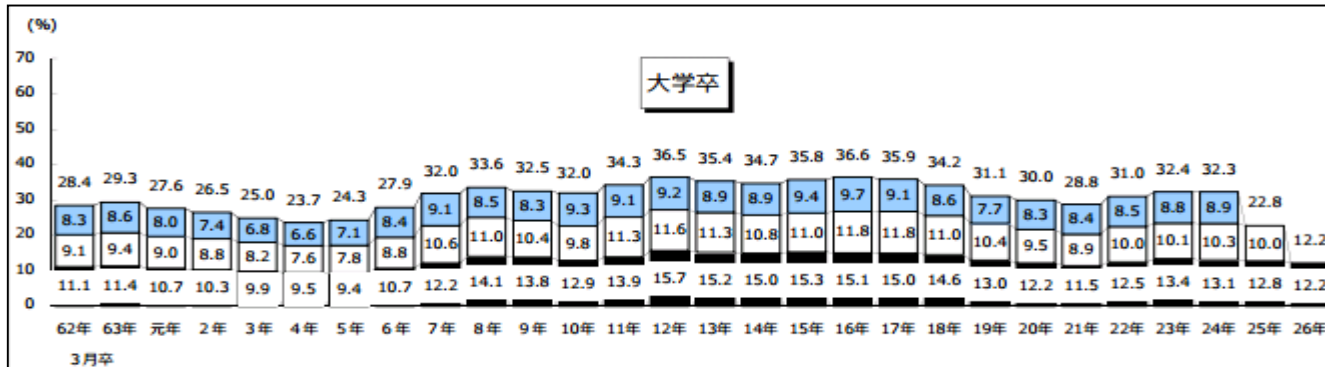
○Uターン者とIターン者の内訳(年齢・理由)をもう少し詳細に見ないと政策の評価は出来ない。(※特にIターンについて)

# 1-7 H27年度Uターン者年齢別構成



## 参考:【H27年度厚生労働省新卒就労者の離職状況調査の結果】

新卒で3年以内に会社を辞めた人の割合(離職率)は32.3%と3年連続で30%を超えた。この結果だけを見ると、最近の若い人はすぐに会社を辞めてしまうというイメージが浮かぶが、長期的に見るとそうとは限らない。確かにリーマンショック後の2009年には28.8%と30%を切った時期があったが、これはむしろ例外的な事象であり、1996年は33.6%と現在とほぼ変わらず、2000年には36.5%に上昇するなど、ほぼ一貫して離職率は30%を超えている。3年の間に離職する率は、1年目が13.1%と最も高く、2年目は10.3%、3年目は8.9%と下がっている。とにかく会社が嫌で辞めてしまうというのは1年目に多いことが分かる。3年目以降の離職者の中には、前向きな転職を求める者が多い



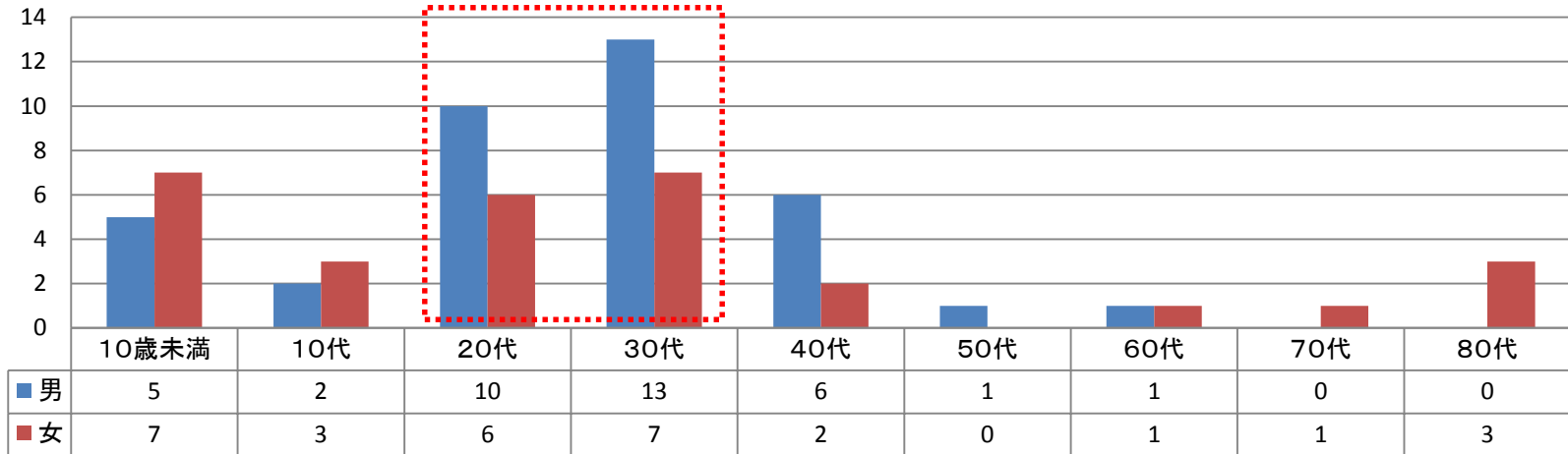
今回のUターン者がこれに該当するか？

※就職状況を確認することで今後の施策展開のヒントとなる可能性あり。

## 【ポイント】

過去3年に渡り、同様の分析を行ったが、傾向はほぼ同一であり、若者のUターン者は多い！

## 1-8 H27年度Uターン者年齢別構成



### 【解説】

Uターン者同様、Uターンについても20代・30代の年齢層が多い。内訳については以下のとおり。

※任意アンケートによるものであり、記載をしていただけない方々も多くいる関係で不明の割合が多くなっている。

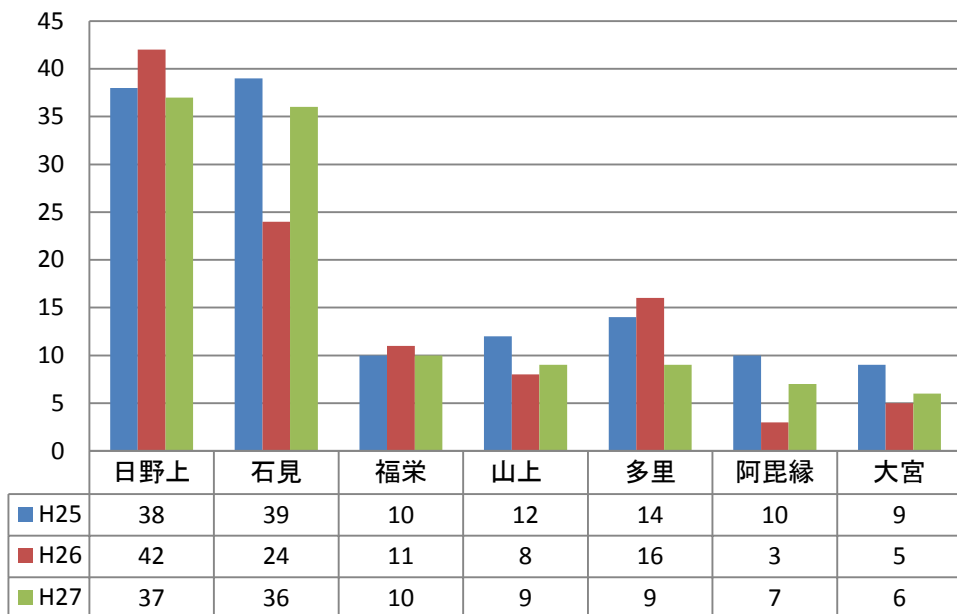
| 転勤 | 就職 | 農林業研修 | 田舎暮らし | 結婚 | 夫の単身赴任 | 子育て | 不明 |
|----|----|-------|-------|----|--------|-----|----|
| 5  | 20 | 5     | 2     | 5  | 4      | 3   | 24 |

○割合で言えば、職業関係が約50%占めており、純粋に田舎暮らしをしたいという方々は非常に少ない状況。

○今回子育ての為という理由が現れたが、本年度より保育料無償を第一子から始めたことで、その効果が出たものと思われる。

○総括すると、政策的な効果は保育料無償化に伴う移住と、農林業研修制度に伴う移住のみであり、それ以外については一身上の都合によるものであったり、仕事柄の事情によるものとなっている。

# 1-9 地区別転入者状況(H25~H27)



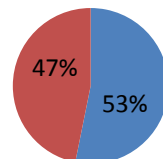
## 【解説】

転入者が多い地域については傾向が決まっており、日野上・石見・多里が毎年トップを占めている。要因としては、「住居環境」が考えられる。特に日野上については民間の賃貸が町内の中でも充実しており、Iターン者(とりわけ、就職の関係で移住した者)が多いのもその影響が考えられる。

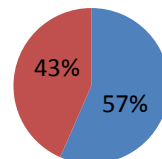
# 1-10 地区別Uターン者・Iターン者割合(H25~H27)

Iターン  
Uターン

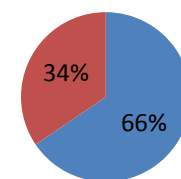
## 日野上



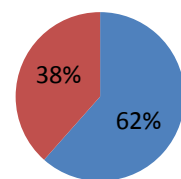
## 石見



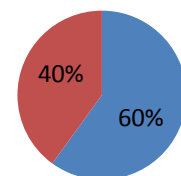
## 山上



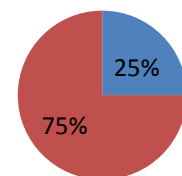
## 多里



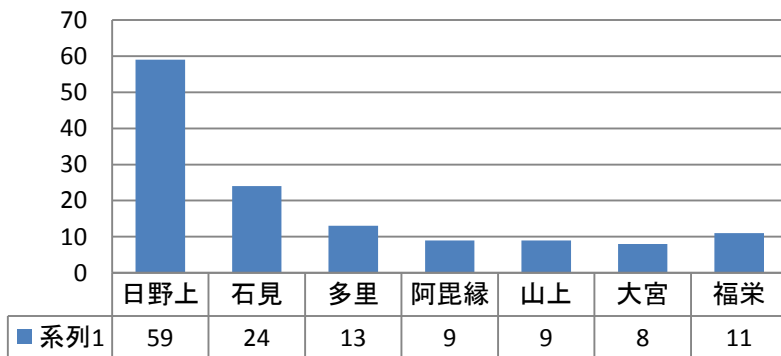
## 大宮



## 阿毘縁



## 参考:H27地区別転出状況

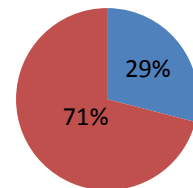


## 【解説】

○27年度のみで言えば、石見地区において転入が転出を大きく上回ったが、(+12人)日野上地区については、転出が多く上回った。(−12人)

○その他地区については、僅かながら転出が上回った。

## 福栄





## 2. データから見る今後の移住・定住施策の展開について

### 【展開1】Uターン者の確保に向けた取組の展開

○現状のデーターを踏まえ、行政と民間がタイアップし積極的に町外に出ていった若年層に対し、Uターンを促す仕組み作りと就職の斡旋体制を構築していく。

### 【展開2】まちづくり協議会単位での人口格差の是正について

○人口減少に伴い、各地区ごとに格差が出つつある中、ある程度均等に人が入ってくる仕組み作りを考えていく必要性がある。

### 【展開3】田舎暮らしについて

○田舎暮らしについては、十分な魅力を発信出来ていないことで移住者が伸び悩んでいると考える。町の魅力全てをパッケージ化し「地域の顔が見えるPR」をしていく必要がある。

### 【課題3】目的を明確化したUターン政策の展開

○Uターンの大半が就職関係であり、とりわけ農林業研修者は、地域の主要産業を担って頂いている点からも貴重な方々と言える。今後は、現在の農林業研修生が抱える問題点をブラッシュアップし、全国的にも魅力がある研修制度を考えて全国にPRをしていく。

○その中で半農半Xなど、農業+αのダブルインカムが出来るよう資格取得制度の助成措置を講じるなどを行い、地域コミュニティーを守るにあたって必要な事をビジネスモデル化するなどと言った事業も検討していく。

(※不足する町営バスの運転手等)

# お試し住宅「ひだまりの家」の整備・利用状況

## 【整備目的】

未使用となっている日南中学校旧寄宿舎の2階部分を、日南町に移住を検討されている方が一定期間町内での生活を体験し拠点施設として利用することのできる「お試し住宅」と、町内の高齢者の方が短期間生活利便の良い場所に滞在することのできる、「高齢者ショートステイ住宅」として整備し、町内への移住定住の促進と、住宅需要の改善を図る



|       |  |
|-------|--|
| 施設名称  | 日南町短期滞在型専用住宅「ひだまりの家」   |
| 個別施設名 | お試し住宅  |
| 部屋数   | 6室   |
| 部屋面積  | 25㎡(1K)  |
| 対象者   | 県外から町内への移住を検討されている方  |
| 使用期間  | 3日～3年以内  |
| 使用料金  | 月額 30,000円(光熱水費含む)<br>※3日間 6,000円<br>(4日目以降1日当たり1,000円を加算)     |
| 駐車台数  | 1室につき1台  |
| 備付備品  | エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、炊飯器、オーブントースター、IHコンロ、掃除機、座卓、ベッド等         |
| その他   | ・寝具、食器、日常消耗品等は無し<br>・インターネット接続可能(Wi-Fi無線)<br>・固定電無し<br>・ペットは不可 |
| 問合せ先  | 日南町企画課<br>TEL:0859-82-1115<br>FAX:0859-82-1478                 |

利用件数

件

|              | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 計  |
|--------------|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 高齢者ショートステイ住宅 | 0   | 3  | 3  | 2  | 1  | 1  | 0  | 0  | 10 |
| お試し住宅        | 0   | 0  | 1  | 4  | 5  | 5  | 4  | 5  | 24 |
| 計            | 0   | 3  | 4  | 6  | 6  | 6  | 4  | 5  | 34 |

利用者の詳細【お試し住宅】

| No. | 性別 | 年齢  | お住まい | 利用目的  | 備考  |
|-----|----|-----|------|-------|-----|
| 1   | 男性 | 20代 | 中国地方 | 定住希望  |     |
| 2   | 男性 | 60代 | 中国地方 | 定住希望  | ○   |
| 3   | 男性 | 30代 | 関東地方 | 農林業研修 | 入居中 |
| 4   | 男性 | 40代 | 東海地方 | 定住希望  |     |
| 5   | 男性 | 30代 | 近畿地方 | 農林業研修 | 入居中 |
| 6   | 男性 | 60代 | 近畿地方 | 定住希望  |     |
| 7   | 男性 | 20代 | 中国地方 | 定住希望  |     |
| 8   | 女性 | 30代 | 近畿地方 | 定住希望  |     |
| 9   | 男性 | 50代 | 中国地方 | 定住希望  | 入居中 |
| 10  | 男性 | 30代 | 中国地方 | 定住希望  | 入居中 |

利用期間

|              | 高齢者ショートステイ住宅 | お試し住宅 |
|--------------|--------------|-------|
| 長期利用者【6ヶ月以上】 | 0人           | 3人    |
| 中期利用者【6ヶ月未満】 | 3人           | 5人    |
| 短期利用者【1ヶ月未満】 | 0人           | 2人    |

## 今後の展開

### ■利用の周知

HPやチラシの他、各種媒体の活用やイベント等での広域的な周知を図る

### ■移住定住施策とのリンク

利用者への聞き取りや相談、情報の提供など、他の移住定住施策とのリンクによるフォロー体制の充実を図る

### ■企業等との連携

利用者の家探し、仕事探しを充実させるため、企業等との連携を図る

○:定住

# 総合戦略におけるコンパクトビレッジ関連 事業の取組状況について



平成28年8月19日  
日南町役場自立改革推進本部  
地方創生専門監 山中 慎一

## 【総論:コンパクトビレッジ構想について】

日南町が抱える課題は・・・

### (1) 少子高齢化と人口減少に伴う地域コミュニティ機能の低下

- ・若年層の都市部流出による子育て世代が減少、地域を支える人材の不足が深刻化
- ・地域行事の開催が困難になってきている。
- ・4割強が高齢者のみの世帯となっている。
- ・高齢者の生きがい対策や介護予防対策が問題になっている。

### (2) 農林業をはじめとする地域経済と生活基盤の弱体化

- ・エネルギーの転換、木材価格低迷による林業の低迷。
- ・収益のあがらない小規模農家の離農。
- ・農工間の所得格差の拡大。
- ・農林業後継者の不足、農林業就業人口の減少。
- ・この10年間で事業所数は20数店舗の減。零細商店が多く商店数、従業員数、売場面積は減少傾向。

### (3) 観光経済拠点の不足による集客力や情報発信力の不足

- ・観光情報(※町の魅力)を一元的に発信できる場所がない。
- ・道路利用者のための、休憩所やトイレがない。
- ・町のお土産を買う場所がない。

# 緩やかな人口減少を実現させるコンパクトヴィレッジ

## 1.住むのは地域(地域を守る)

## 2.生活機能は中心地域(町を守る)

- 中心地の効率的な機能集中(行政、教育、文化医療、福祉、商業)
- 地域からの移動手段(公共交通)の充実
- コンパクトヴィレッジ内での移動機能の充実

## 3.町民総活躍の場が地域経済をまわす!

- 地産地消そして地産外消の場を創設
- 農家、消費者、高齢者、女性、障がいのある方など
- 農林業後継者の確保

【地域内経済の循環】

【町民総活躍の場】

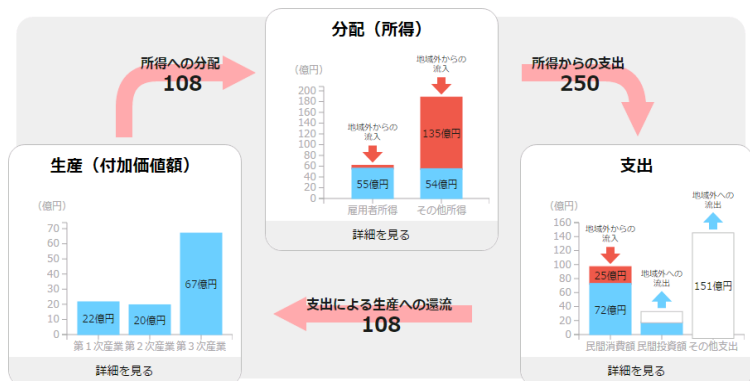


道の駅にちなん日野川の郷

地域経済循環率  
43.4%

地域経済循環図  
2010年

指定地域：鳥取県日南町



ステップ1: 観光客の増加により、地域内における民間消費額が増加する。

ステップ2: 道の駅が地域内で生産された農産物の調達量を増やすことにより、第1次産業及び第3次産業の付加価値額および雇用者所得が増加する。

ステップ3: 雇用者所得の増加により、地域内における民間消費額が増加する



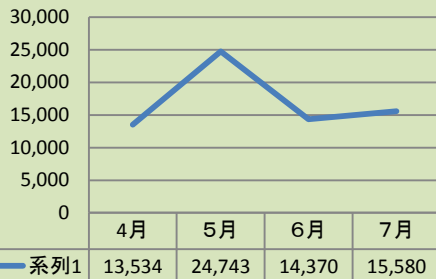
# 道の駅にちなん日野川の郷における状況報告および課題等の整理について

## 1. 来客状況および売上実績等について

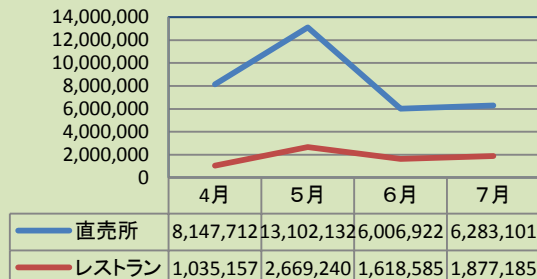
(概要)

1. 来訪者数および売上金額について5月を除き、一定の数値を保ちつつある。今後冬期期間は現状よりも下方傾向になることが予想されるため、現在のラインをいかに維持出来るかが定めたKPIの達成状況の鍵を握る。
2. 売上の上位ランキングにおいて、加工品が大半を占めており、今後も「日南町ならでは」の魅力ある商品作りを進めていくことが重要。(※特に「食」については重要課題)
3. イベントが誘客促進につながっておらず、きちんとした戦略を立て、行動を取っていくことが極めて重要。

来訪者数の推移(4月~7月末)



直売所およびレストラン売上額推移(4月~7月末)



## 2. 企業によるコンサルティングの実施

地方創生加速化交付金対象事業



(取組内容)

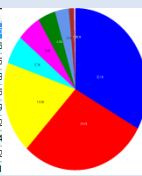
役場・道の駅職員を交え、カルネコ㈱による毎月1回の経営者会議を開催し、課題の抽出とその改善方策について議論。次年度以降、関係者で確実にPDCAサイクルを回す上でのノウハウ等を身につけることを目的としている。



【これまでの指摘事項の一例】

- イベント計画の企画立案の時期について
- アンケート実施の必要性について
- 変化を数値で捉え、それを起点とした仮説を導き、行動計画を立て、実行する事。

| コード | 名称        | 売上数量   | 構成比   | 2016/04 | 2016/05 |
|-----|-----------|--------|-------|---------|---------|
| 000 | 食品        | 39,644 | 23.1% | 9,730   | 16,111  |
| 500 | レストラン     | 34,596 | 28.9% | 5,076   | 13,448  |
| 010 | 野菜        | 21,979 | 19.2% | 3,957   | 7,205   |
| 080 | その他       | 6,892  | 5.7%  | 356     | 2,408   |
| 080 | 飲料        | 6,484  | 5.4%  | 1,377   | 2,426   |
| 000 | 穀物(米・麦・豆) | 4,792  | 4.0%  | 1,091   | 1,789   |
| 000 | 手工茶品      | 1,286  | 1.1%  | 109     | 784     |
| 000 | 果物        | 396    | 0.3%  | 50      | 2       |
| 110 | 施設利用料     | 0      | 0.0%  | 11      | -11     |



これを踏まえ・・・  
【※ポスレジのデータの可視化】  
○客観的データを踏まえた上で、仮説を立て、関係者一同で行動をとっていくことが可能。

## 3. 媒体等による情報発信について

地方創生加速化交付金対象事業



(取組内容)

広島・岡山で発売される主要雑誌2者に特集を組み、両県からの誘客促進を行なった。



## 4. 特産品開発に向けたさらなる取組

地方創生加速化交付金対象事業

(取組内容)

オープン前より町内産の食材を活用した加工品の開発を行ってきたが、今年度においてもさらなる強化を図っていくことで、商品ラインナップの充実化を図っていく



## 5. 今後の課題等について

- 「もう一度あそこに行ってみよう」と思ってもらえる魅力を見いだせるような取組が必要
- 道の駅を拠点とした町内の観光周遊体系の構築 (※観光戦略と同時並行で考える)
- 出荷者協議会の参画を増やす(※品物が出る、出せるような仕組み作り)
- 「ここでしか食べられない」食へのこだわり

- 町内の新たな物流体系の模索
- 外部の方のみならず町民が集う仕掛け作り
- 魅力ある町内産の加工食品作り



# 日南町公共交通総合計画の策定に向けた取組

## 事業概要

コンパクト・ビレッジ形成に伴い、中心地内の運行の充実と、各エリアから中心地に出てくるための町営バス等の充実化が求められている。これに伴い、3年計画で町内の運行体系の見直しを図り、毎年可能なものから実施していくこととする。

## H27年度調査事業の概要

① 予算額・・・3,996千円(※国費:地方創生上乗せ交付金)

② 事業者・・・株式会社バイタルリード(島根県出雲市)

③ 内 容

### (1) 日南町の地域特性と公共交通の現状分析

- 人口の推移・分布、主要施設の立地状況等の整理
- 交通需要の目的、手段割合・推移、町内・都市間分布特性等の整理
- 提供される公共交通サービスの内容、利用者・運行経費等の推移の整理

### (2) 各種ニーズ調査の実施と分析

#### ● 町民アンケート

町民を対象としたアンケートを実施し、外出についての目的、手段、頻度や公共交通に対する意識等を把握するとともに、公共交通の利用促進・転換に向けた潜在的な需要を把握する。

#### ● 乗降調査

町営バス路線について、乗降バス停、利用目的、頻度等の利用実態等を詳細に把握する。

#### ● 利用者アンケート

町内を運行するバス路線について、利用者に対してアンケートを実施し、外出頻度、利用状況、改善要望等を詳細に把握する。

#### ● 主要集客施設調査

主要集客施設の利用者を対象にした調査を行い、利用交通手段、時間帯、利用頻度、公共交通利用の可能性等を把握

## 今後のスケジュール

H27

- 公共交通総合計画策定に向けた調査開始
- ダイヤ改正および巡回バスの道の駅立ち寄りに伴うルート変更と便数の増加(2便→7便)
- 電気自動車の購入とラッピング(※巡回バス専用車)

H28

- H28年4月より、新たな循環バスの運行開始。
- 調査結果を踏まえ各路線別ごとの課題を見出し、日南町公共交通総合計画を策定。
- 道の駅への出荷物について貨客混載の可能性について議論を行う。(※日本財団連携事業活用を視野)

H29

- 計画を基に、順次町営バスおよびデマンドバスにおいてフリー乗降区間の設置やバス停の変更を行う。
- 過疎地有償を希望する地区については順次検討を進める。

## 調査結果後の取組内容

### ● 既存の路線における課題と解決策

※日南町公共交通総合計画の策定

- ① 停留所の位置の妥当性
- ② フリー乗降区間の設置箇所
- ③ 使用車両の妥当性
- ④ 運行便数と時間帯の妥当性

### ● 地域が自ら導入する運行手段の課題

- ① 過疎地有償運送導入可能エリアの提示
- ② 導入にあたっての諸問題
- ③ 地元タクシー会社との競合の考え方

## 平成28年7月末までの取組状況について

○フリー乗降区間の設定につき、6月下旬に県警と協議を行い、設定については概ね了解を得た。

○5月下旬にデマンドバスの運行時間帯に問題がある旨の要望が寄せられている関係で、現地住民の方々との懇談会を開催。

○現在、新たな運行ダイヤ設定について案を作成中

# 生山地区分譲住宅事業の概要(鳥取県日南町)

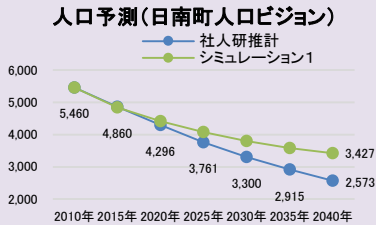
## 事業の目的と概要

日南町総合戦略で行う「移住・定住促進」対策の一環として、町内中心部に分譲地を整備し一定の助成制度を導入することで、「子育て世代の方々」をターゲットとした移住定住施策を展開していくことを目的とする。(※総合戦略のKPIに分譲住宅入居者5世帯を掲げている。)

## ① 日南町の概況説明(位置・人口動態)



日南町は、中国山地のど真ん中、一級河川日野川の源流域に位置する。東部から南部にかけて岡山県新見市、南西部は広島県 庄原市、西は島根県奥出雲町、北東部は島根県安来市、北西部は鳥取県日野町及び南部町に隣接している。



**【直近の町内の人口数】**  
H27年度国勢調査速報値(4,764人)

**【日南町人口ビジョン・総合戦略】**  
H27年8月に日南町人口ビジョンを策定し2040年の人口数を3,427人という目標を掲げ、各種施策を展開する。

**【子育て世代の人口流出の原因】**

- ・高校が地元になく、進学を機に家族で近隣市町村に転出(※通学の不便が理由)
- ・同居世帯が町内の住宅不足を理由に近隣市町村に転出

### 【今後必要な対策】

- ①同居世帯者が将来日南町から転出しないよう、早急に住宅整備を行う必要がある。
- ②高校への通学にあたって利便性がある土地に住宅整備を早急に行う必要がある。
- ③人口増加策を行う上で、移住者向けの住宅確保が必須。

## ② 分譲地整備の説明



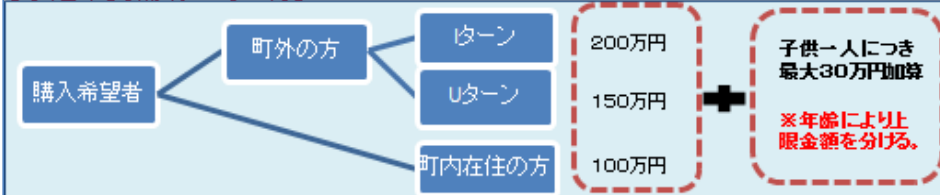
**【地理的条件】**  
整備地区は日南町の中心部である生山地区に存在。現在町が進めているコンパクトビレッジ構想の範囲に指定しており、医療・商業・行政の施設が半径1km以内にある。JR生山駅から徒歩3分と高校の通学には非常に便利

**【整備区画数等】**  
今回は8区画整備し、同地区で最低24人(夫婦+子供1名)の居住を確保出来る。

## ③ 分譲地における具体的な支援制度について(案)

- ・当該土地代金については10年間住んでいただくことで返還措置を講じる。これについては「保証金」として事前に土地代金分を町に預けていただく。
- ・建物建築費用については、家族構成に応じて一定の助成金を出す。(例:夫婦のみ ●●万円、子供の人数に応じ、●●万円加算)

### 【② 建築費補助の考え方】



| 契約時点 | 1年後 | 2年後 | 3年後 | 4年後 | 5年後 | 6年後 | 7年後 | 8年後 | 9年後 | 10年後 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 0歳   | 1歳  | 2歳  | 3歳  | 4歳  | 5歳  | 6歳  | 7歳  | 8歳  | 9歳  | 10歳  |
| 1歳   | 2歳  | 3歳  | 4歳  | 5歳  | 6歳  | 7歳  | 8歳  | 9歳  | 10歳 | 11歳  |
| 2歳   | 3歳  | 4歳  | 5歳  | 6歳  | 7歳  | 8歳  | 9歳  | 10歳 | 11歳 | 12歳  |
| 3歳   | 4歳  | 5歳  | 6歳  | 7歳  | 8歳  | 9歳  | 10歳 | 11歳 | 12歳 | 13歳  |
| 4歳   | 5歳  | 6歳  | 7歳  | 8歳  | 9歳  | 10歳 | 11歳 | 12歳 | 13歳 | 14歳  |
| 5歳   | 6歳  | 7歳  | 8歳  | 9歳  | 10歳 | 11歳 | 12歳 | 13歳 | 14歳 | 15歳  |
| 6歳   | 7歳  | 8歳  | 9歳  | 10歳 | 11歳 | 12歳 | 13歳 | 14歳 | 15歳 | 16歳  |
| 7歳   | 8歳  | 9歳  | 10歳 | 11歳 | 12歳 | 13歳 | 14歳 | 15歳 | 16歳 | 17歳  |
| 8歳   | 9歳  | 10歳 | 11歳 | 12歳 | 13歳 | 14歳 | 15歳 | 16歳 | 17歳 | 18歳  |
| 9歳   | 10歳 | 11歳 | 12歳 | 13歳 | 14歳 | 15歳 | 16歳 | 17歳 | 18歳 | 19歳  |
| 10歳  | 11歳 | 12歳 | 13歳 | 14歳 | 15歳 | 16歳 | 17歳 | 18歳 | 19歳 | 20歳  |
| 11歳  | 12歳 | 13歳 | 14歳 | 15歳 | 16歳 | 17歳 | 18歳 | 19歳 | 20歳 | 21歳  |
| 12歳  | 13歳 | 14歳 | 15歳 | 16歳 | 17歳 | 18歳 | 19歳 | 20歳 | 21歳 | 22歳  |
| 13歳  | 14歳 | 15歳 | 16歳 | 17歳 | 18歳 | 19歳 | 20歳 | 21歳 | 22歳 | 23歳  |
| 14歳  | 15歳 | 16歳 | 17歳 | 18歳 | 19歳 | 20歳 | 21歳 | 22歳 | 23歳 | 24歳  |
| 15歳  | 16歳 | 17歳 | 18歳 | 19歳 | 20歳 | 21歳 | 22歳 | 23歳 | 24歳 | 25歳  |
| 16歳  | 17歳 | 18歳 | 19歳 | 20歳 | 21歳 | 22歳 | 23歳 | 24歳 | 25歳 | 26歳  |
| 17歳  | 18歳 | 19歳 | 20歳 | 21歳 | 22歳 | 23歳 | 24歳 | 25歳 | 26歳 | 27歳  |
| 18歳  | 19歳 | 20歳 | 21歳 | 22歳 | 23歳 | 24歳 | 25歳 | 26歳 | 27歳 | 28歳  |
| 19歳  | 20歳 | 21歳 | 22歳 | 23歳 | 24歳 | 25歳 | 26歳 | 27歳 | 28歳 | 29歳  |
| 20歳  | 21歳 | 22歳 | 23歳 | 24歳 | 25歳 | 26歳 | 27歳 | 28歳 | 29歳 | 30歳  |

## ④ 今後のスケジュール(予定)について

- ・【H28年5月～6月】……分譲地造成設計作成
- ・【H28年7月～H29年2月】……造成工事(基盤整備、上下水道管敷設、道路整備等)
- ・【H29年2月】……完成、検査

# 日南町巡回バス(たったも号)実証運行の中間報告と、 日南町公共交通総合計画の策定に向けた動き



# 1. 循環バス運行内容変更の経緯について

○日南町コンパクトビレッジ構想を進める中、中心地内の移動手段を充実化させることを目的とし、平成28年4月に運行体系の変更を行った。

(変更内容)

- ・1日2便運行を、1日7便に運行
- ・新たに「道の駅にちなん日野川の郷」に停留所を追加し、立ち寄る為のルート変更を行なった。



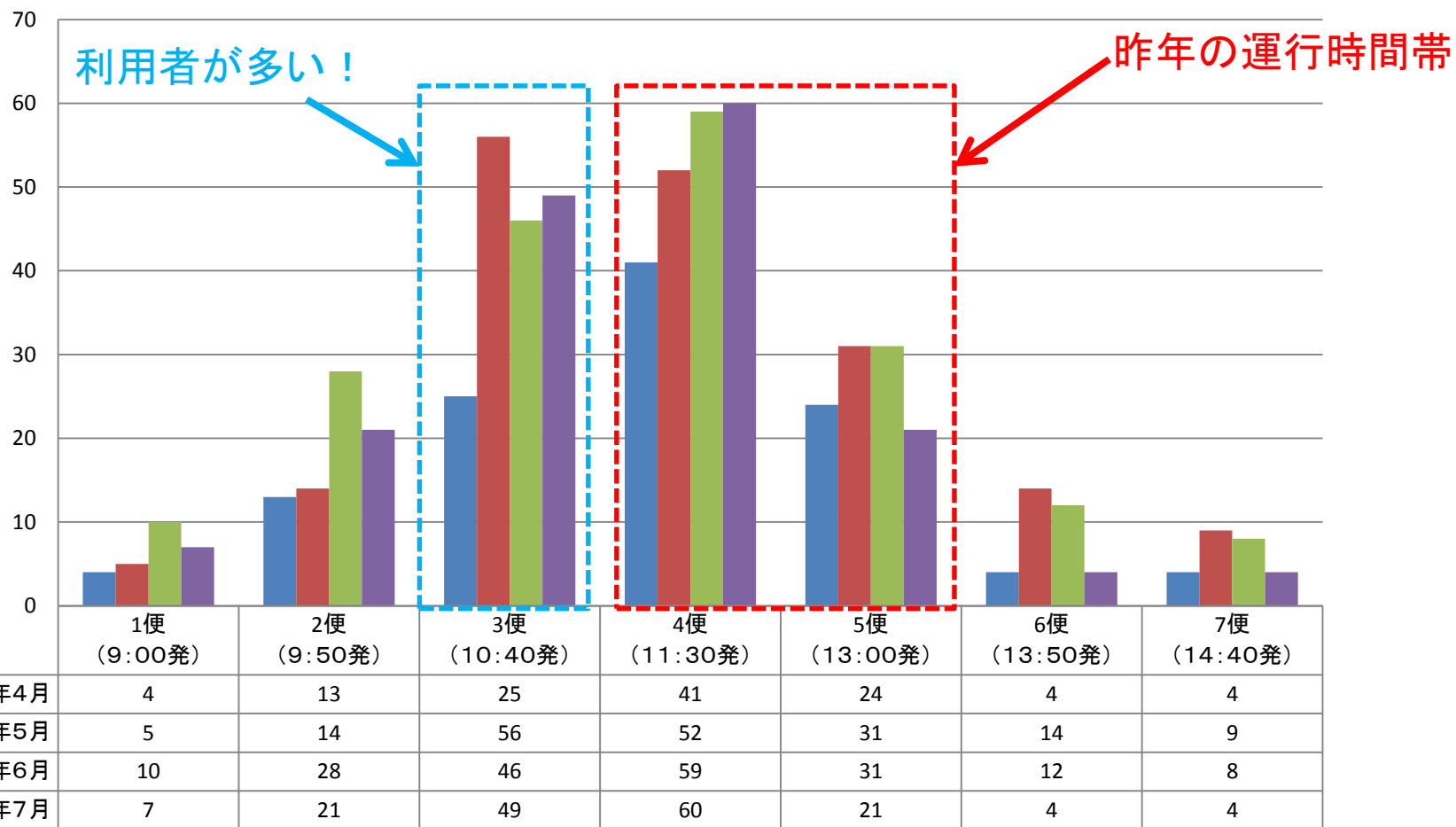
ただし

今年度については、あくまで「実証運行」と位置づけ、1年間の利用者数の推移等を分析しながら、次年度以降最終的な結論を出していく

**【H27年度補正加速型交付金対象事業:170万円】**



## 2-2 便数別利用者数推移(H28.4~H28.7)

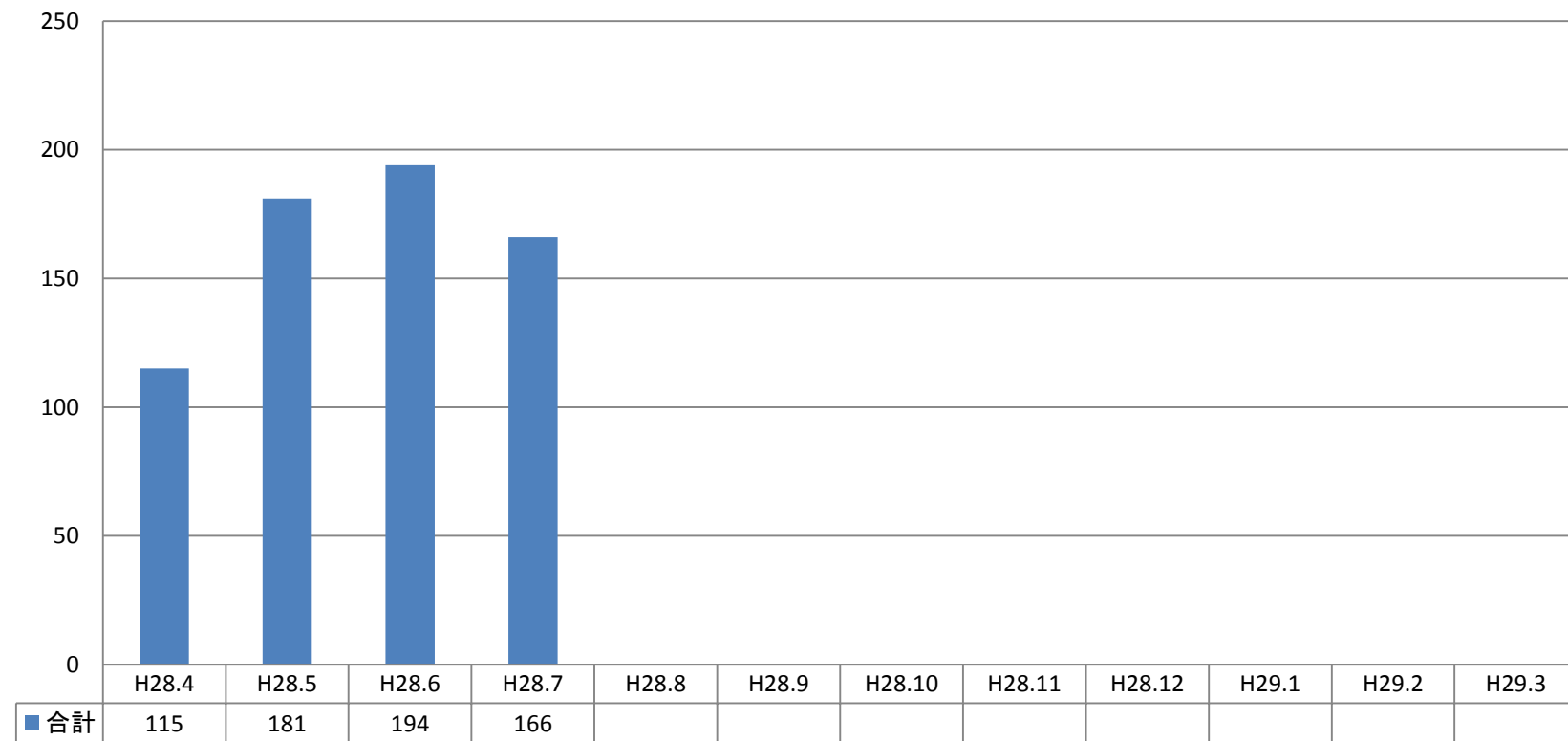


### 【傾向について】

○1便と7便は、全体的に利用者数が少なく、次年度以降の運行については今後議論が必要。

○昨年度までの運行は現在の4便・5便の時間帯を担っていた。その点で見ると3便の利用者数が多いのは、注視すべき点である。

## 2-1 巡回バス利用者数推移(月別)



### 【傾向について】

○4月については、導入当初ということもあり、住民も戸惑いを感じていたため利用者数が非常に低い状況であったが、その後は確実に増加傾向が見られる。

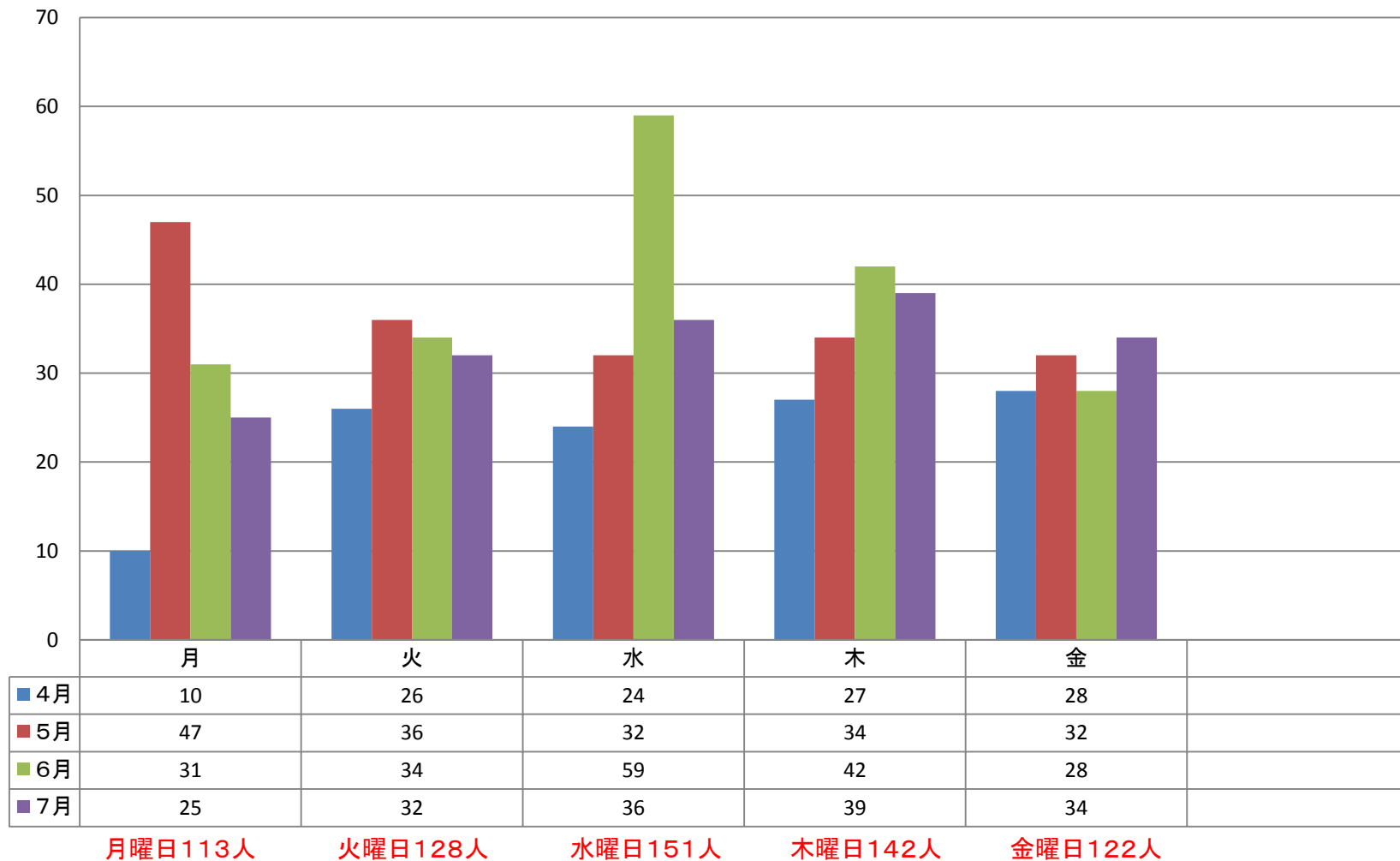
○ただし、昨年度の利用者数と比較すると、5月を除き大幅に利用者数が伸びたとは言い難い状況。

### 参考: 昨年度との利用者数比較

|    | H27年度 | H28年度 |
|----|-------|-------|
| 4月 | 156人  | 115人  |
| 5月 | 143人  | 181人  |
| 6月 | 190人  | 194人  |
| 7月 | 163人  | 166人  |



## 2-3 曜日別利用者数の推移(H28.4~H28.7)



### 【傾向について】

○水曜と木曜が利用が多いが、曜日により極端な差は出ていない状況。

○6月の水曜日の利用者が突出している理由については不明。(※水曜日については病院の整形外科受診日であり、その影響も考えられる。)

### 3. これまでの結果を踏まえた仮説について

(仮説1)これまで病院受診後に11:30分まで待機せざるを得なかった方々がこの便が出来た関係で利用をしている可能性があるのではないか？

待ち時間なく、買物等次の行動に移れたという点で言えば、利便性の向上に寄与したとも捉えることが出来ないか？



(仮説2)便数を2便から7便に増便したが、利用者が昨年度と比較して余り伸びていない。

新規需要が増えたのではなく、今回の見直しにより利用者の行動パターンに変化が出たのではないか？(※上記仮説1の証明)

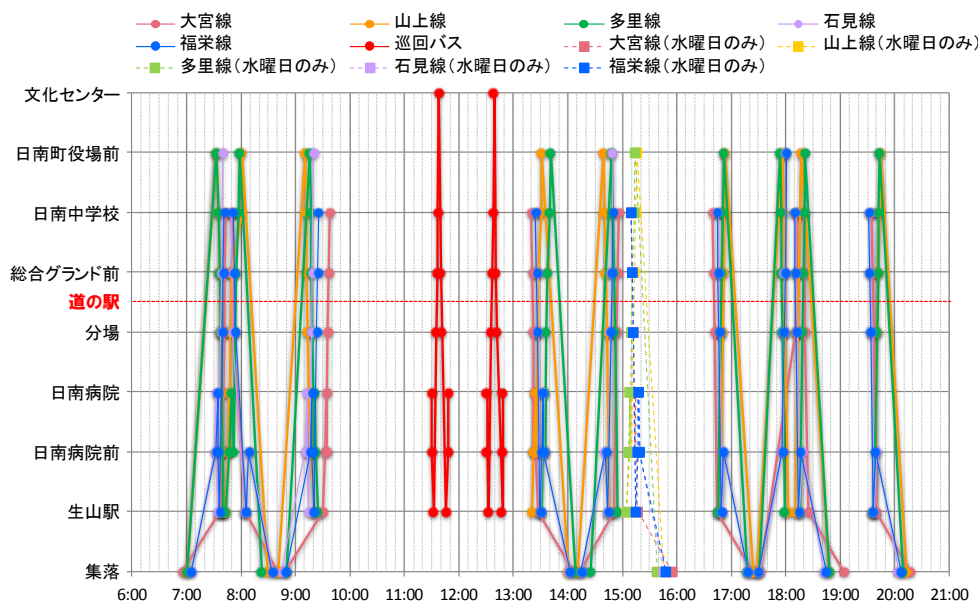


(仮説3)1・2・6・7便については、既存の町営バスから巡回バスにお客がシフトした可能性はないか？

上記仮説2により、新規需要が伸びていないということであれば単に乗り物が変わっただけであり、既存の町営バスの運行見直しのヒントにならないか？(上記仮説2の証明)



#### 【上記仮説を補完する既存データ】



#### (参考)

昨年実施した公共交通の現状調査において、中心地のバス運行状況について示された物が左の図である。これを見ると、既に中心地内を移動するバスの便数が複数運行されている状況であり、これらに乗車していた客が循環バスに流れた可能性が考えられる

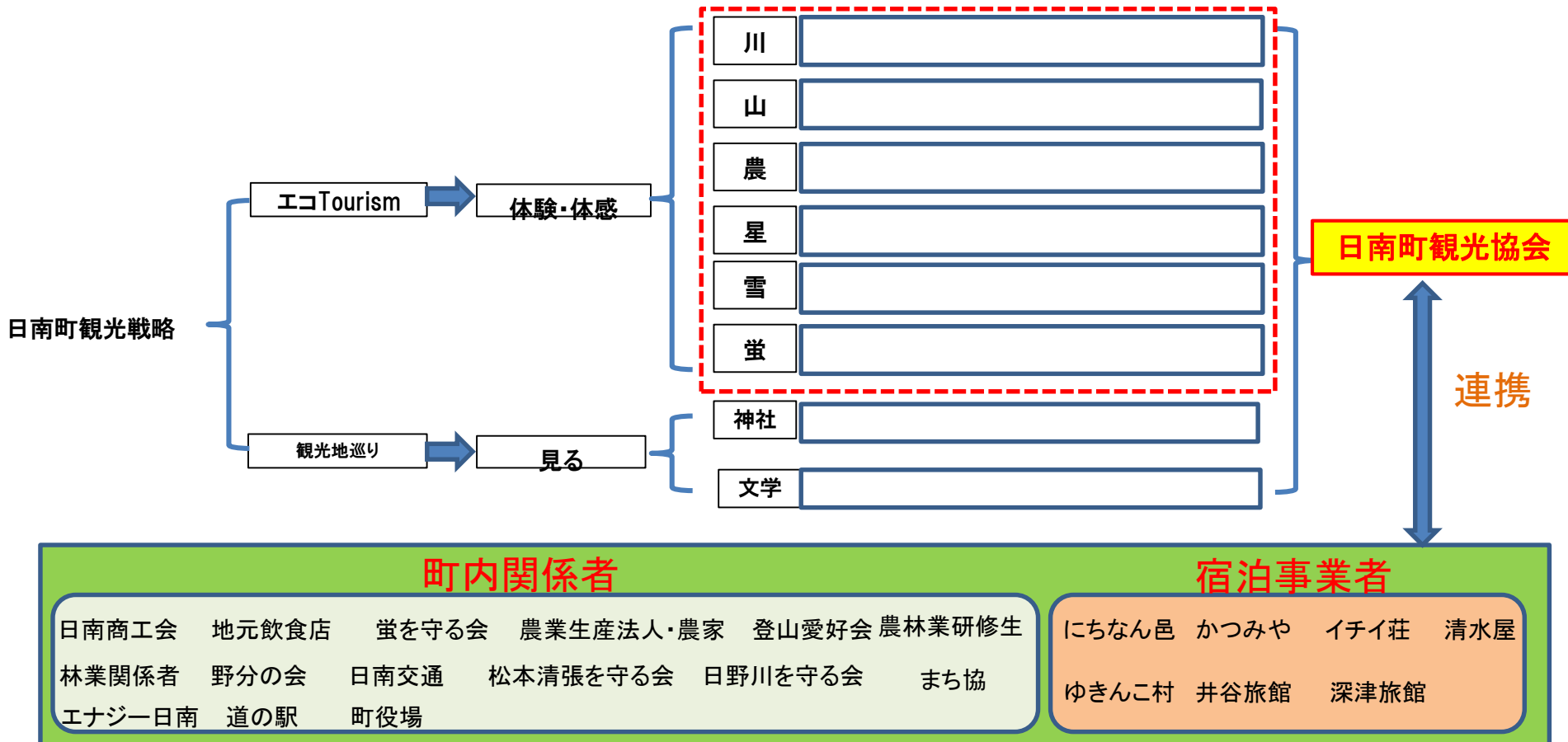


#### 現段階における実証運行後の整理

- ①1便・7便についてはなんらかの数値的基準を設け、満たさない場合については減便する。
- ②3便の利用者の傾向を的確に把握し、今後策定する日南町公共交通総合計画の中で整理をする。

# 日南町観光戦略スケルトン(案)～今ある資源を見つめ直し、ここでしか出来ないことを5感で感じてもらう！～

(概要)これまで町の観光は、神社仏閣を中心にした物味遊山ばかりであり、「自然の魅力」を活かした取組が出来ていなかった。今一度、**地域を見つめ直し、日南町の関係者がそれぞれの得意分野において自然を舞台とした観光戦略を構築すること**で、交流人口の拡大を目指す。



## 【この政策の目指すべき方向性】

- 日南町ならではの自然を活かし、四季折々の体験・体感メニューを関係者で共同開発。
- 日南町観光協会が地域限定旅行業の免許を取得し、開発商品の販売を行なっていく。
- 交流人口の拡大に伴う町内経済循環率の向上を目指す。
- 観光協会が自己収入を得て、町から独立運営をしていくことを目指す。

## 2. 日南町総合戦略で実施する事業との関連性について

### (1) CSR活動からの波及効果

- 現在地方創生関連事業で進めている企業のCSR活動の誘致において3社(日本通運・JTB中国四国・ネオメディア社)が日南町のフィールドを活用し活動を実施。
- 今後これらの企業とタイアップし、観光メニュー開発を行う(※CSR活動から派生するアウトカム)

### (2) 移住・定住関連事業・・・農林業研修生による「半農半X」

- 今後、町がターンを進めていくにあたっては、農林業+ $\alpha$ のダブルインカムを目指す研修生を募集していくことになるが、Xの部分において、農家民泊や、農業体験等生業から派生する観光メニュー開発も想定されるため、研修生募集の段階でしっかりとこの点をPRしていく。

### (3) 日南ブランド商品開発

- 現在道の駅の商品開発をメインに進めているが、今回の取組を通じ、販路拡大や新たな商品開発を考えていく。

### (4) 道の駅の運営との関連について

- 道の駅を拠点とした観光情報発信をきちんと行える体制・手法を構築していくことが求められる。

### (5) 空き家バンク登録の関係について

- 観光メニューの開発において、古民家等の空き家の利活用も想定されるため、単に住居としての提供のみならず、観光の視点からも登録を増やしていく。